

第7回大学教育改革フォーラム 大学教員の教育能力をどう開発するか

開 会 の 辞

荒 木 光 彦（京都大学高等教育教授システム開発センター長）

司会を務めさせていただく荒木と申します。本職は電気工学専攻で自動制御を研究していますが、平成12年から当センターのお手伝いをさせていただいております。

大学教育フォーラムも7回目になりました。第1回は「日本の大学をどうするか」という漠然とした話。つづいて、「大学教育の個性化」、「教養教育・大学授業をどうするか」とやってきまして、まだこの段階では授業がどうのこうのということでしたが、昨年から「FDをどう組織するか」、とうとう今年は大学教員に立ち入りました。私どもの大学でもFDの話をしますと、中には大学の教員の独立性をおっしゃる方もいらっしゃいます。授業は我々の聖域であるのでよそから一切手を入れるな、口も出さなということですが、とうとうそこまで到達したという感じがします。

プログラムに趣旨が書いてあります。評価から始まりまして、大学の教員の教育能力をどう開発するかということで、藤岡の方から問題提起させていただき、それぞれの権威者である4名の方からコメントをいただくかたちで進めます。

本題に入る前に、まず、本大学総長の長尾真からご挨拶させていただきます。